



森本 真之助 (もりもと しんのすけ)

【プロフィール/略歴】

三重県志摩市出身 36歳、紀宝町鶴殿在住
 平成25年3月：自治医科大学医学部卒業
 同年4月：日本赤十字社伊勢赤十字病院 初期臨床研修
 平成27年4月：紀南病院組合立紀南病院 内科
 令和2年4月：日本赤十字社伊勢赤十字病院 救急部
 令和3年4月：紀南病院組合立紀南病院内科医長、熊野市立紀和診療所 所長
 令和4年4月：紀宝町立相野谷診療所 所長
 同年10月：紀宝町地域医療研修センター センター長
 同年12月：紀宝町健康危機管理官



特集：西田町長×森本医師対談

これからの地域医療とは

ポストコロナ時代を迎えるにあたって、町が目指すこれからの地域医療のあり方や防災について、西田町長と令和4年4月に相野谷診療所の所長に就任した森本医師が意見を交わしました。

この1年間で振り返った感想は

町長・森本先生は、昨年4月より相野谷診療所長に就任され、外来診療や訪問診療に加えて学校医や園医、特別養護老人ホームの嘱託医と、幅広く町内の地域医療に貢献されています。志の高い先生が紀宝町の町医に就任されました。この度はご英断いただきありがとうございます。

森本・こちらこそ採用していただきありがとうございます。紀宝町で家族と暮らし始めて2年が経ちますが、特にこの1年はあっといいう間に感じました。地域のみなさまにはいつも大変お世話になっていきます。

町長・紀宝町では、第2次総合計画に基づき「人の命が1番」「子どもは町の宝」「高齢者は町の誇り」の3つを掲げて、この町に住んでよかったと実感してもらえようなまちづくりに取り組んでいます。

森本先生は紀宝町医として就任した初年度が新型コロナ

のうち、その指揮官となる統括DMATとして厚生労働省に登録され、災害医療に関する専門家として三重県全体の防災にも貢献されています。防災分野に進もうと思った理由をお聞かせください。

森本・きっかけは大学生のころ、栃木県で東日本大震災を経験したことです。先日の石川県地震同様、震度6強で揺れ、津波の被害はありませんでしたが、停電や家屋倒壊があり、大変怖い思いをしました。その後、復興ボランティアや現地での視察研修を経験し、故郷の三重県で南海トラフ地震対策に貢献したいと強く思うようになりました。

町長・各方面でご活躍いただき本当にありがとうございます。ところで先生は日本DMAT (Disaster Medical Assistance Team) 隊員(災害派遣医療チーム) 隊員

統括DMATとして災害医療にも貢献

町民の命を守る体験を通じて、この仕事の責任とやりがいを感じた1年となりました。引き続きがんばりたいと思っています。

町長・紀宝町でも平成23年に紀伊半島大水害が発生し、本当に甚



森本氏が代表を務める「おもしろ大学」で実施した浅里地区での田植え体験

紀宝町を選んだ理由

町長・ところで、森本先生のご出身は志摩市であり、移住前は伊勢赤十字病院の救命救急センターで救急医

大な被害を受けました。もちろん地震と水害で災害の種類は違いますが、先生と町が大災害に遭った経験を共有できるのは前向きに捉えられます。特にこれからは南海トラフ地震対策に力を入れていくことが急務ですから、災害医療は大切であると思っています。